



トピックス…③

2017年度のバター及び脱脂粉乳の輸入方針と需給見通し

農林水産省は1月27日、バター及び脱脂粉乳の安定供給を確保するため、2017年度全体でバター13,000トン（生乳換算160,420トン）及び脱脂粉乳13,000トン（同84,240トン）の輸入を実施する予定であることを発表した。これには、カレントアクセス分（義務輸入分）を含んでいる。一方、Jミルクによる全国の生乳需給予測によると、バターベースで275千トン、脱脂粉乳ベースで186千トンの供給不足となる見込みである。

輸入数量設定方法の変更

農林水産省は2015年度以降、毎年1月に翌年度のカレントアクセス分（生乳換算137,202トン）の輸入を決定し、5月及び9月に追加輸入の判断を行ってきた。

この手法に対しては、酪農乳業関係者から、輸入の予見性が高まり、バターの安定供給に寄与したとの評価がある一方、年間の輸入数量全体が不明であり、輸入バター等の調達計画が立てづらいため、年間の輸入数量の目処を示して欲しいという意見があったという。

年間の輸入数量の目処を示せば、乳業メーカーは計画的に輸入バターを業務用に使用し、業務用に仕向けていた生乳を家庭用バターの生産に回すことにより、家庭用バターの安定供給につながる事が期待できる。

そこで今回からは、1月にカレントアクセス分のみではなく、翌年度全体の需給を見通した輸入予定量を示す方法に改めた。また、5月及び9月にその時点の検証を行い、天候の悪化など不測の事態による需給のひっ迫が発生した場合には、必要に応じて、さらなる追加輸入も

検討するという。

これにともない本年2月以降、独立行政法人農畜産業振興機構は、基本的に毎月輸入入札を実施し、入札数量はバター及び脱脂粉乳のそれぞれの需要に応じて設定する予定である。なお、最近の国際乳製品価格は再び上昇基調にあり、わが国の乳製品需給をめぐる情勢は予断を許さない。

2017年度の需給見通し

Jミルクは1月27日、2017年度の「生乳及び牛乳乳製品の需給見通し」を発表した。これによると、全国の生乳供給量は7,220千トン（前年比1.2%減）で、需要量に対して脱脂粉乳ベース（脱脂粉乳需要量を満たすための生乳必要量）で186千トン、バターベース（バター需要量を満たすための生乳必要量）で275千トンの供給不足となっている。なお、16年度分輸入残量を加味すると、バターベースの生乳供給量は148千トンの不足となる（表1参照）。

表1 2017年度の生乳需給見通し

	供給量 (a)	需要量 (b)	過不足1 (a-b)	輸入売渡 (c)	過不足2 (a-b+c)
脱脂粉乳ベース	7,220	7,406	▲ 186	0	▲ 186
バターベース	7,220	7,495	▲ 275	126	▲ 148

出典：Jミルク作成資料

注) 2017年度の輸入売渡は16年度分輸入残量5.2千トンを仮置きした。

牛乳類の生産量は4,652kl（前年比1.0%減）、その内訳は牛乳が3,040kl（同0.3%減）、乳飲料が1,184kl（同2.5%減）、成分調整牛乳が333kl（同0.8%減）、加工乳が95kl（同5.3%減）で、これに対して、はっ酵乳は引き続き堅調な需要が期待できるとして1,130kl（同2.6%増）と予測している。

乳製品の需給については、2016年度の脱脂粉乳及びバターが、国内生産量はやや減少するものの、15年度分輸入残量と16年度分カレントアクセス及び追加輸入により

十分な供給量が確保され、年度内の需給は安定して推移すると予測した。

しかし、2017年度の国内生産量は減少し、需要量はほぼ前年並みと見込まれることから、脱脂粉乳の供給量（120.0千トン）が出回り量（134.8千トン）を14.8千トン、バターの供給量（67.6千トン、16年度分輸入残量5.2千トンを含む）が出回り量（73.7千トン）を6.1千トン、それぞれ下回ると予測した。その結果、年度末の在庫量は、脱脂粉乳が35.6千トン（前年比29.3%減）、バターが18.5千トン（同24.8%減）となる見込みである（表2参照）。

表2 2017年度の脱脂粉乳及びバターの需給見通し

	生産量 (a)	輸入売渡 (b)	供給量 (a+b)	推定出回り量 (c)	過不足 (a+b-c)	年度末 在庫量
脱脂粉乳	120.0	0.0	120.0	134.8	-14.8	35.6
バター	62.4	5.2	67.6	73.7	-6.1	18.5

出典：Jミルク作成資料

注) 2017年度の輸入売渡は16年度分輸入残量5.2千トンを仮置きした。